I'm not a robot

エクセル (Excel) 形式・PDF形式のカレンダー無料ダウンロードサイト『こよみカレンダー』です。 予定を入力しやすいシンプルなデザインのエクセルカレンダー。パソコンでのスケジュール管理はもちろん、印刷して使いたい場合にも便利。セル幅など自分好みにカスタマイズして使えます。 また、プリントアウトして使いたい場合にはPDF形式のカレンダーがおすすめです。 私用・商用問わず全て無料でダウンロードできるフリー素材ですのでご自由にお使いくださいませ。 2025年エクセル無料カレンダー エクセル (Excel) 形式の2025年カレンダーです。 月別 (月間) カレンダーと年間カレンダー (1月始まり・4月始まり) 、それぞれ日曜始まりと月曜始まりの 2 タイプあります。 2025年 月間 (月別) エクセルカレンダー 2025年 年間エクセルカレンダー 2025年エクセルカレンダーのダウンロードページはこちら 2025年エクセル無料スケジュール表 予定を入力できるエクセル (Excel) 形式の2025年月間・年間スケジュールテンプレートです。 パソコンでのスケジュール管理はもちろん、印刷して使いたい場合にも便利。シンプルで使いやすくセル幅など自分好みにカスタマイズして使えます。 2025年エクセル月間スケジュール・予定表 2025年エクセル年間スケジュール・予定表 2025年エクセルスケジュール表のダウンロードページはこちら 2025年PDF無料カレンダー 印刷して使いたい時に便利なPDF形式の2025年カレンダーです。 2025年1月～12月までの月別PDFカレンダーと、年間PDFカレンダー (1月始まり・4月始まり) があります。 2025年PDF月間カレンダー 2025年PDF年間カレンダー 2025年PDFカレンダーのダウンロードページはこちら カレンダー01_2025年 PDF版カレンダー03_2025年 PDF版 カレンダー02_2025年 PDF版カレンダー04_2025年 PDF版 年間_縦01_2025 PDF版年間_縦03_2025 PDF版 年間_縦02_2025 PDF版年間_縦04_2025 PDF版 当サイトのExcelカレンダーは、ほとんどが日付の自動入力に対応している万年カレンダーです。 カレンダーを使いまわす場合、年月の部分を変更すると「日付」が自動的に変更されます。 ここでは、Excelの基本的なデザイン機能を使って、カレンダーの見た目やデザインをカスタマイズする手順を解説しています。 曜日を表示する方法 ①曜日を手動で入力する方法： 曜日を表示したいセルを選択します。 それぞれのセルに「日」「月」「火」「水」「木」「金」「土」と入力します。 入力した曜日のテキストをフォーマットして、見やすく調整します (例：中央揃え、太字など) 。 ②既に入力された日付を、曜日に変更する方法： カレンダーの日付が入力されているセル (例：2024/01/01) を選択します。 そのセルを右クリックして「セルの書式設定」を選択します。 「カスタム」タブを選び、タイプフィールドに「aaaa」(曜日のフルネーム表示) または「aaa」(曜日の略称表示) を入力し、「OK」をクリックします。 設定したセルをコピーし、カレンダーの他の日付に適用することで、曜日が表示されます。 ③関数を使って、自動的に入力する 曜日を表示したいセルを選択します。例えば、A1セルに日付が入力されていると仮定します。 曜日を表示したいセル (例：B1セル) に以下の式を入力します： =TEXT(A1, "ddd")この式は日付を曜日の略称 (例：月、火、水) に変換します。フルネームで表示したい場合は、"dddd"と入力します。 式を入力したセルを選択し、カレンダーの他の日付があるセルまでドラッグしてオートフィルを使用します。これにより、他の日付に対応する曜日が自動で表示されます。 便利なエクセル関数と条件付き書式でカレンダーをカスタマイズする手順 - Genial Technology関数と条件付き書式を使ってエクセルでカレンダーを作成する方法を解説します。本記事では、カレンダー作成の手順とヒントを提供します。 日付祝日2024年1月1日元日2024年1月8日成人の日2024年2月11日建国記念の日2024年2月12日振替休日2024年2月23日天皇誕生日2024年3月20日春分の日2024年4月29日昭和の日2024年5月3日憲法記念日2024年5月4日みどりの日2024年5月5日こどもの日2024年5月6日振替休日2024年7月15日海の日2024年8月11日山の日2024年8月12日振替休日2024年9月16日敬老の日2024年9月22日秋分の日2024年9月23日振替休日2024年10月14日スポーツの日2024年11月3日文化の日2024年11月4日振替休日2024年11月23日勤労感謝の日2024年の祝日リスト｜内閣府 日付祝日2025年1月1日元日2025年1月13日成人の日2025年2月11日建国記念の日2025年2月23日天皇誕生日2025年2月24日振替休日2025年3月20日春分の日2025年4月29日昭和の日2025年5月3日憲法記念日2025年5月4日みどりの日2025年5月5日こどもの日2025年5月6日振替休日2025年7月21日海の日2025年8月11日山の日2025年9月15日敬老の日2025年9月23日秋分の日2025年10月13日スポーツの日2025年11月3日文化の日2025年11月23日勤労感謝の日2025年11月24日振替休日2025年の祝日リスト｜内閣府 当サイトで2年以上前にダウンロードされた万年カレンダーをざっくりと俯瞰し、祝日の並びや各月のポイントを確認します。 特に長期連休や振替休日の発生、旧暦の行事などを考慮しておくと、スケジュールを立てる際に役立ちます。 2025年 カレンダー早見表 (主な祝日・休日一覧) 月 主な祝日・休日 トピックス 1月 ・1/1 (水) 元日 ・1/13 (月) 成人の日 新年のスタート。年末年始休暇明け。 旧暦の正月 (春節) は1/29 (水) 2月 ・2/11 (火) 建国記念の日 ・2/23 (日) 天皇誕生日 → 2/24 (月) 振替休日 振替休日が入って3連休になる場合がある。 バレンタインデーや旧暦行事が重なる地域も。 3月 ・3/20 (木) 春分の日 花粉症シーズン本格化。 3月14日に皆既月食 (一部地域で観測可能) 。 4月 ・4/29 (火) 昭和の日 4月下旬からゴールデンウィークへ突入。 大阪・関西万博の開幕は4/13 (日) 予定。 5月 ・5/3 (土) 憲法記念日 ・5/4 (日) みどりの日 ・5/5 (月) こどもの日 → 5/6 (火) 振替休日 例年通りGWが長めに。国内旅行や海外旅行者が増加。 立夏 (5/5) 付近から初夏の陽気。 6月 祝日はなし 梅雨入りシーズン。台風の発生にも注意。 イード・アル・アドハー (イスラム教の犠牲祭) が6月上旬頃。 7月 ・7/21 (月) 海の日 夏休みシーズン到来。猛暑や台風に要注意。 七夕 (7/7) は旧暦行事として8月に行う地域も。 8月 ・8/11 (月) 山の日 お盆休みをからめて大型連休の企業も。 残暑やゲリラ豪雨に備えが必要。 9月 ・9/15 (月) 敬老の日 ・9/23 (火) 秋分の日 シルバーウィークの並びに注目。 9月8日に皆既月食が全国で観測好機。 10月 ・10/13 (月) スポーツの日 秋の行楽・収穫シーズン。 大阪・関西万博は10/13まで。 11月 ・11/3 (月) 文化の日 ・11/23 (日) 勤労感謝の日 → 11/24 (月) 振替休日 紅葉のピーク。勤労感謝の日が日曜と重なり、 振替休日が発生。 12月 祝日はなし 師走の忙しい時期。 クリスマスや年末行事が盛み。 仕事納めや冬休みをどう取るか計画が大事。 上表は主に日本の祝日や行事を一覧化したものです。 もちろん月ごとに細かな行事や地域独特の祭りも存在しますし、旧暦に準じるイベント (例：中秋の名月、旧盆など) もあるため、詳しくは後続の章で紹介します。 表を見てわかるとおり、2025年は大型連休が比較的はっきりしています。特に春 (ゴールデンウィーク) 、夏 (お盆) 、秋 (シルバーウィーク) は旅行や帰省、イベントなどで混雑する時期が予想されるため、早めの計画が有効です。2025年は新たなイベントも多く、国内外からの訪問者が増える見込みですので、宿泊や交通の予約は前倒しで押さえるのが安心でしょう。 また、海外では中国の春節 (旧正月休み) やアメリカのサンクスギビング、クリスマスシーズンなど、各国で旅行・買い物ラッシュとなる時期があります。そうした国際的な休日や連休の発生状況も把握しておくことで、ビジネス面でもプライベートの旅程づくりでも混雑や物流遅延などを事前に回避しやすくなります。 以上が、2025年の概略として押さえておきたいポイントです。次の章以降では祝日・休日の詳細や、旧暦・干支、天文現象、季節の移り変わりなどをさらに細かく掘り下げていきます。2025年をより豊かに暮らすための参考情報として、お役立てください。 第2章：2025年の祝日・休日 完全解説 1. 日本の祝日一覧と由来 日本の祝日は、国民の生活文化と深く結びついており、それぞれの由来や趣旨を知ると、単に“休日”としてだけでなく、歴史や伝統行事に触れられる機会になります。ここではまず、2025年の祝日を月ごとにまとめてみましょう。そのうえで、振替休日の発生や臨時措置の有無についても解説します。 1) 1年を通じた祝日の具体的日付・名称 2025年 日本の祝日一覧 (予定) 日付 祝日名 概要 1/1 (水) 元日 新年を祝う最初の祝日。日本では“お正月”として家族で過ごすことが多い。 1/13 (月) 成人の日 20歳 (現行制度) を迎える若者を祝福し、大人としての自覚を促す日。 2/11 (火) 建国記念の日 日本の建国をしのび、国を愛する心を養う日。古事記や日本書紀に由来。 2/23 (日) → 2/24 (月) 振替休日 天皇誕生日 今上天皇の誕生日。2/23が日曜日のため、翌月曜が振替休日となる。 3/20 (木) 春分の日 昼夜の長さがほぼ同じになる日。自然をたたえ、生物をいつくしむ趣旨がある。 4/29 (火) 昭和の日 昭和天皇の誕生日にちなむ日。昭和の時代を顧み、国の将来を考える。 5/3 (土) 5/4 (日) 5/5 (月) → 5/6 (火) 振替休日 憲法記念日 みどりの日 こどもの日 5/3は日本国憲法施行を記念する日。 5/4は自然に親しむ日。 5/5はこどもの人格を重んじ、成長を祝う日。 5/4が日曜のため、5/6が振替休日に。 7/21 (月) 海の日 海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日。7月第3月曜日に固定。 8/11 (月) 山の日 山の恩恵に感謝し、自然との触れ合いを進める日。お盆休み前後に連休化しやすい。 9/15 (月) 敬老の日 長年社会につくしてきた高齢者を敬い、その健康を祝う。9月第3月曜日。 9/23 (火) 秋分の日 春分と同様、昼夜の長さがほぼ同じ 祖先をうやまい、亡くなった人々をしのぶ日。 10/13 (月) スポーツの日 かつての体育の日。スポーツの振興と健康増進を願う。10月第2月曜日。 11/3 (月) 文化の日 自由と平和を愛し、文化をすすめる日。芸術祭や学園祭もこの時期に活発化。 11/23 (日) → 11/24 (月) 振替休日 勤労感謝の日 勤労を尊び、生産を祝い、国民同士が感謝しあう日。日曜重複のため振替休日あり。 2025年には12月の祝日がありません。よって師走は平常稼働となりますが、クリスマスシーズンや年末年始の準備などで忙しくなる時期でもあるため、スケジュール管理には注意が必要です。 2) 振替休日が発生する日と理由 振替休日は、祝日が日曜日と重なった場合に、その翌平日を休日とする仕組みです。2025年の場合、以下のケースで振替休日が発生します。 2/24 (月) : 前日の2/23 (日) が天皇誕生日 5/6 (火) : 5/4 (日) がみどりの日 11/24 (月) : 11/23 (日) が勤労感謝の日 このように、祝日が日曜と重なると翌月曜が休みになるため、月曜が振替休日となる週は3連休になるケースが多くなります。平日が少なくなる時期は業務調整や学校スケジュールにも影響が出やすいので、カレンダーをしっかりチェックしましょう。 3) 2025年限定の特別措置 (臨時祝日など) があるかどうか 場合によっては皇室行事や国際的な大イベントに合わせて、“臨時祝日”が設けられることがあります。過去には天皇即位の礼や東京オリンピックに関連して休日が変更・追加された例もありました。 2025年に関しては、国民の祝日に関する法律や特別法の動向を確認する限り、現時点 (※執筆時点) のところで臨時祝日の予定はありません。 大イベントとして「大阪・関西万博」がありますが、国会での審議による祝日制定などは公表されていません。今後も特別措置が決定された場合、官報や内閣府の発表などで公式にアナウンスされるはずですので、最新情報をチェックすることが必要です。 2. 連休を最大限に活用しよう：大型連休の組み方 日本の祝日は月曜固定のもの (ハッピーマンデー制度) と固定日付のものが混在しています。そのため、年間を通じて“飛び石連休”や“大型連休”など、さまざまなパターンで休日が訪れます。ここでは、2025年のカレンダーを踏まえた連休の概要と、有給休暇を組み合わせるテクニックを紹介します。 1) 年末年始・GW・夏休み (お盆) ・秋の連休の傾向 年末年始 (2024年末～2025年初頭) 一般的に12月29日～1月3日ごろまでが年末年始の休暇期間になる企業が多いです。2025年は1月1日が水曜日、成人の日が1月13日 (月) なので、12月28日 (土) ごろから1月5日 (日) ごろにかけて最大9連休を確保できる企業もあります。年末年始は旅行需要が高まるほか、帰省ラッシュ・U ターンラッシュも発生しやすいので移動手段の早期確保が肝要です。 ゴールデンウィーク (GW) 2025年のGWは、4月29日 (昭和の日) から始まり、5月5日 (こどもの日) が月曜日、さらに5月6日 (火) が振替休日となるため、4月26日 (土) または27日 (日) から連休に入る企業・学校もあるでしょう。 ※具体的に有給休暇を1～2日挟むと、最長10連休以上になる可能性もあります。毎年国内・海外を問わず人気の観光シーズンとなりますので、早めに計画を立てることが大切です。 夏休み (お盆) お盆は一般的に8月13日～16日を中心に休暇とする企業が多いです。2025年は8月11日 (月) が「山の日」のため、このタイミングで5連休程度の休暇を取る会社もあるでしょう。夏季に旅を楽しむ方や実家に帰省する方は、交通機関や宿泊施設の予約が集中しやすいので注意が必要です。 秋の連休 (シルバーウィーク) 9月は「敬老の日」(9月15日・月) と「秋分の日」(9月23日・火) がそれぞれ平日を挟んでおり、一部の方は間に有給休暇を入れて連休を延ばすことができます。ただし祝日が連続しておらず“国民の休日”が発生しないため、2025年は大規模な連休にはなりにくいのが特徴です。それでも工夫次第で5連休程度にはできる場合があります。 2) 祝日と有給休暇を組み合わせるヒント 連休を最大限に活用するには、有給休暇の賢い取得が欠かせません。以下のような方法で、飛び石になった平日を休日化するのが一般的です。 平日を1日だけ有給休暇にする：祝日の間の平日を一日だけ有給休暇にすることで、土日＋祝日の連休を途切れなくつなげるテクニックです。 2日連続で有給を取得する：GWのように土・日・祝が隣接している場合、平日に2日休みを入れて最大10連休など長期化を狙うことができます。 祝日にこだわらず、個人の都合を優先：混雑を避けたい方は、あえて祝日や大型連休を外して有給を取るのも一案です。料金のオフシーズンを狙うと経費節減にもつながります。 企業によっては有給休暇の取り方に制約がある場合もありますが、早期申請や部署内のスケジュール調整をしっかり行うことで、希望通りの休暇を確保しやすくなります。週末の前後に1～2日の休みを足すだけでもプチ連休が作れますので、うまく計画を立ててワークライフバランスを充実させましょう。 3. 国民の休日のしくみ 日本には、「国民の休日」と呼ばれる独特の制度があります。これは、祝日と祝日に挟まれた平日が自動的に休日になるという仕組みです。ただし、この条件に当てはまる日が毎年必ずあるわけではなく、カレンダーの並び次第です。 1) 「祝日に挟まれた平日が休日になる」条件と2025年の該当有無 国民の休日が成立するための条件は、「平日が前後を祝日に挟まれていること」です。たとえば、前日が祝日で翌日も祝日で、その間の平日がまるごと休日になる、というパターンです。これによって、“飛び石連休”がスムーズにつながる場合があります。 しかし、2025年の祝日カレンダーを確認すると、祝日に挟まれた平日が存在せず、「国民の休日」が発生する日はありません。 例年、5月や9月あたりで国民の休日が発生しやすい傾向にありますが、2025年の場合は祝日が連続しない配置になっているため、平日が完全に挟まれる状況がないのです。 2) 来年以降に注目すべきカレンダーの並び 2026年や2027年以降は、再び祝日同士が連続する可能性が出てきます。たとえば、秋分の日や敬老の日が近い時期に配置されることで、“シルバーウィーク”が誕生する年もあります。 カレンダーの並びが変わる理由は、平年・うるう年の影響や、春分・秋分の日の毎年1日前後のズレなどがあるためです。今後、大型連休を作りやすい年には一層の混雑が予想されるため、旅行や帰省は余裕をもって計画しておくと安心です。 4. 世界各国の主要な祝日 日本だけでなく、海外の祝日や連休が国内のビジネスや観光に大きく影響するケースがあります。特に近年は海外旅行者 (インバウンド) の動向が活発で、中国や韓国、欧米からの訪日観光客が増えるタイミングには、国内の宿泊施設や観光地が混雑したり、店頭商品の売れ行きが変動しやすくなったりします。ここでは代表的な海外の祝祭日をチェックしてみましょう。 1) 中国の春節、韓国のソルラル、欧米のイースター・クリスマスなど 中国の春節 (旧正月) : 2025年は1月29日 (水) が旧暦の正月にあたり、1月末から2月上旬にかけて大規模な連休が発生します。中国では企業や官公庁が7～8日程度の休暇を取ることが多く、数億人規模の移動が起きるため、国際線航空券やホテルも込み合うのが特徴です。 韓国のソルラル (旧正月) : 中国の春節とほぼ同時期で、2025年は同じく1月29日 (水) 前後にあたります。韓国でも3～5日ほどの連休となり、多くの人々が帰省や旅行に出かけます。 イースター (欧米) : キリスト教 (カトリック・プロテスタント) で最も重要視される祝祭のひとつ。2025年のイースターは4月20日 (日) で、その前後にはグッドフライデー (聖金曜日) やイースターマンデーが祝日扱いとなる国もあります。 イースター休暇中はヨーロッパの証券取引所や金融機関が休業になるなど、国際ビジネスにも影響します。 クリスマス (欧米・世界各国) : 12月25日を中心に、世界中で祝われる最大級の行事です。日本では法定休日ではありませんが、多くの企業が年末休暇に入る直前でパーティやイルミネーションが盛り上がります。一方、海外の物流や金融市場が休みになることが多いため、輸入業・貿易業などはスケジュール調整が必要となります。 2) 日本のビジネスや観光に影響を与える連休動向 ビジネス面では、海外の祝日期間中に取引先企業が休みになると、受発注やコミュニケーションに遅延が生じる可能性があります。特に中国の春節期間は大規模な物流停止や工場稼働停止が起きやすく、日本国内の在庫管理や納期に影響することが少なくありません。 また、韓国のソルラルや中秋節 (チュソク) 時期には、訪日観光客が増加しやすいため、商業施設や観光地、免税店などでは売上増が期待できる一方で、混雑対応が必要になります。観光面では、イースターやクリスマスが近づくと、欧米からの旅行客も増えることがあります。特にアジア圏の長期休暇 (春節、ゴールデンウィーク、お盆、シルバーウィーク) が重なると、一斉に旅行需要が集中し、航空券やホテルの価格が跳ね上がりがちです。 訪日旅行客のニーズが高まる時期は、日本各地で通訳案内士や多言語対応スタッフの確保など、サービス業の人材需要も増えます。こうした連休のサイクルを把握しておくと、戦略的な集客や営業計画を立案しやすいでしょう。 以上、第2章では2025年の祝日・休日に関する基本情報から、大型連休の作り方、世界の祝祭日との関係までを総合的に見てきました。次章以降では、さらに暦の深い部分――例えば干支や旧暦、六曜など――にスポットを当てながら、2025年のこよみをより多角的に解説していきます。 第3章：干支・旧暦・六曜の基礎と2025年の詳細 1. 干支「乙巳 (きのと・み) 」の意味 日本の古来の暦文化では、干支 (えと) が年を象徴する非常に重要な概念となっています。干支は「十干 (じっかん) 」と「十二支 (じゅうにし) 」を組み合わせたもので、全部で60種類のパターンがあり、約60年で一巡する仕組みです。2025年は、この60年のなかでも「乙巳 (きのと・み) 」の年にあたります。十二支で見ると「へび年」に該当し、干干で見ると「乙 (きのと) 」です。 1) 干支60種類のしくみ 干支は、まず10種類の十干と12種類の十二支を順番に組み合わせていくことで成立します。十干は以下の通りです。 甲 (きのえ) 乙 (きのと) 丙 (ひのえ) 丁 (ひのと) 戊 (つちのえ) 己 (つちのと) 庚 (かのえ) 辛 (かのと) 壬 (みずのえ) 癸 (みずのと) 一方、十二支は以下のように構成されています。 子 (ね) 丑 (うし) 寅 (とら) 卯 (う) 辰 (たつ) 巳 (み) 午 (うま) 未 (ひつじ) 申 (さる) 酉 (とり) 戌 (いぬ) 亥 (い) 十干を1巡 (10年) しても、十二支はまだ巡り切りません。そこで、この2つを同時に進めていくと、最初の「甲子 (きのえ・ね) 」から最後の「癸亥 (みずのと・い) 」まで、合計60パターンで一通りの循環が完了します。干支の周期を「60年」とする根拠はここにあるのです。 2) 「乙巳」に込められた性質やイメージ 2025年の干支「乙巳」は、十干の2番目である「乙 (きのと) 」と、十二支の6番目である「巳 (み) 」を組み合わせたものです。それぞれの文字が持つ性質は以下のように伝えられています。 乙 (きのと) : 植物の芽が少しずつ伸び、まるで曲がりくねりながら成長していく状態を表すとされます。また「甲」に比べて柔軟性があり、物事が本格的に育ち始める時期に対応するイメージです。 巳 (み) : 十二支の6番目で「へび」を象徴する文字です。古代中国では「春に冬ごもりの蛇が地面から出てくる段階」を示唆し、「動き始める力」「再生や変容」を連想させる存在とされてきました。 このため、「乙巳」は「大きな変化のスタート」や「曲折を経ながら徐々に成長していく」といった意味合いがあると考えられています。特に「巳 (へび) 」は「脱皮」というキーワードから、「生まれ変わり」「豊穣」「金運」などの象徴ともされ、日本でも弁財天の使いと結び付けられるケースが見られます。 3) 還暦を迎える世代 (1965年生まれ) との関係 干支は60年で一巡するため、1965年 (昭和40年) 生まれの方々は、2025年にちょうど「還暦」を迎えることになります。還暦は「暦が一巡する」つまり、生まれたときの干支に戻る年という意味合いがあります。伝統的にこの節目を重視する風習があり、赤いちゃんちゃんこや赤い小物などを身に着けて祝うのが一般的です。 2025年には、1965年 (乙巳年) 生まれの方が60歳となり、家族や友人と盛大にお祝いをする機会が増えるでしょう。かつては「人生50年」と言われていた時代から比べると、60歳はまだまだ現役といえるイメージもあります。干支のめぐりにあわせて、自分の人生の節目を振り返るきっかけにするのもよいでしょう。 2. 旧暦 (太陰太陽暦) と2025年の暦対応 日本では明治維新以降、現在のグレゴリオ暦 (新暦) が公的に採用されていますが、それ以前は旧暦 (太陰太陽暦) が使われていました。旧暦は月の満ち欠けを基準としつつ、季節とのズレを調整するために閏月 (うるうづき) を設ける仕組みです。現代でも地域行事や祭礼などでは旧暦を重視しているところがあり、2025年に行われる行事にも旧暦由来のものが少なくありません。 1) 旧暦の月と新暦の日付対応表 旧暦では、各月の始まりが新月にあたるのが基本的なルールです。そのため、現代の1月1日が旧暦1月1日になるとは限らず、年ごとにズレが生じます。2025年の場合、旧暦1月1日 (旧正月) は新暦では約1か月遅れの1月29日 (水) に該当します。 2025年 旧暦と新暦の対応 (主な日安) 旧暦の月 概算の新暦日付 主な行事例 旧暦1月 2025年1月29日頃 ～ 2月27日頃 旧正月 (春節) 、ソルラル (韓国) など 旧暦2月 2025年2月28日頃 ～ 3月29日頃 立春の直後、本来の“節分”の位置づけ 旧暦7月 2025年7月25日頃 ～ 8月23日頃 旧盆 (沖縄など地域による) 旧暦8月 2025年8月24日頃 ～ 9月21日頃 中秋の名月 (旧暦8月15日) 旧暦9月 2025年9月22日頃 ～ 10月21日頃 後の月 (十三夜) など ただし、上記はあくまで概算であり、月の位相を元に決定されるため、正確な日付は年によって細かく変動します。また、閏月が入る年は各月の対応がさらに複雑になることもある点に注意が必要です。 2) 旧正月 (春節) や旧盆など旧暦行事の背景 旧正月 (春節) : 中国や韓国など東アジアを中心に、旧暦1月1日に行われる新年行事です。2025年は1月29日が旧正月であり、多くの地域では1月末から2月初めにかけて長期休暇となります。日本でも横浜や神戸の中華街を中心に「春節祭」が盛大に催されます。 旧盆 (きゅうぼん) : もともとは旧暦7月15日前後に先祖供養をする行事でしたが、本土では新暦8月15日を中心とした「お盆」として定着しています。一方、沖縄や一部地域では今も旧暦の7月15日に合わせて行うところが多く、2025年は新暦で9月上旬にあたります。 中秋の名月: 旧暦8月15日の月は「十五夜」「芋名月」として古来より鑑賞され、秋の収穫への感謝を表す風習がありました。2025年の旧暦8月15日は新暦で10月6日ごろに重なる見込みです。 現在の日本では、公式には新暦を採用していますが、祭りや伝統的行事の中には旧暦に基づくものが少なくありません。地域によっては観光客を呼び込む目玉イベントともなっているため、「旧暦のいつが新暦のいつに当たるか」を知ることは、歴史や文化をより深く楽しむうえで有意義です。 3. 六曜 (先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口) のしくみ 六曜 (ろくよう) は、カレンダーや日めくりにもしばしば印刷されている「先勝」「友引」「先負」「仏滅」「大安」「赤口」の6つを指します。大安は結婚式や祝い事に選ばれやすい一方、仏滅は忌避されるなど、日本では冠婚葬祭の基準として一定の影響力をもっています。これは本来は中国の暦注に由来するとされていますが、日本で定着したのは江戸時代後期以降といわれています。 1) 冠婚葬祭やイベント日取りの選び方 現代では六曜をまったく気にしない人も多い一方、冠婚葬祭業界では依然として大きな意味を持ちます。たとえば、結婚式場やホテルの婚礼予約は「大安」に集中しやすく、逆に「仏滅」は料金割引を行う式場があるほどです。葬儀では「友引」を避けるという文化も広く残っています (“友を引く＝縁起が悪い”という考え方) 。 ただし、この六曜は必ずしも公式な規範として定められているわけではなく、あくまで目安として扱われるものです。個人や地域の価値観によっては、「気にしない」「むしろ割安になる仏滅を選ぶ」「イベント日程を柔軟に決める」といったケースも増えています。 2) 2025年各月の日付と六曜の配置 六曜は毎日巡るものの、月の朔日によって始点が変わるため、月ごとに配置がずれます。以下は2025年1月の例を簡単に示したものです。 2025年1月の六曜カレンダー (例) 日付 曜日 六曜 備考 1/1 水 先勝 元日 1/2 木 友引 1/3 金 先負 1/4 土 仏滅 年始の挨拶回りなど注意 ? 1/5 日 大安 新年初の大安 1/6 月 赤口 昼のみ吉とされる説あり 同じ月日でも、前年や翌年と六曜が一致するとは限りません。カレンダーを購入する際や、日付アプリなどを利用するときに、2025年版の六曜表示を確認しておくと、冠婚葬祭の日取り計画が立てやすくなります。 3) 一粒万倍日・天赦日など他の吉凶日も合わせてチェック 実は六曜以外にも、暦にはさまざまな「吉凶日」が設定されています。代表的なのは以下のような日です。 一粒万倍日 (いちりゅうまんばいび) : 「一粒のモミが万倍にも実る」という意味で、新しいことを始めるのによい日とされます。開業日や財布の新調、宝くじ購入などに縁起が良いということで、最近はカレンダーやSNSなどでも話題になりがちです。 天赦日 (てんしゃにち) : 「天がすべてを赦 (ゆる) す日」と言われ、暦の上で最上級に吉とされる日です。年に数回しかないため、大安以上に重要視する方もいます。結婚・引越し・開店など、人生の大事な節目に選ばれやすいです。 不成就日 (ふじょうじゅび) : 一粒万倍日や天赦日とは逆に、「物事が成就しにくい」とされる日です。せっかく吉日と重なっても、この不成就日と重なると差引ゼロとなる、あるいは凶日になるという解釈もあるため、細かく気にする人は両方のカレンダーを照合するケースがあります。 2025年は一粒万倍日や天赦日が複数回訪れますが、六曜 (大安・仏滅など) とこれらの吉凶日が同日になるタイミングもあります。たとえば、「大安＋一粒万倍日」や「大安＋天赦日」などが重なる日は、結婚式や開業、財布の新調に最適と言われるため、予約が取りづらくなる可能性もあるでしょう。 ただし、これらはあくまでも縁起や文化的な風習です。必ず守らなければいけないというわけではなく、個人の考え方や状況に応じて柔軟に取り入れることが大切です。とはいえ、人生の大きなイベントを計画する際、こうした暦の知識を知っておくと、周囲とのコミュニケーションが円滑になったり、伝統行事をより深く味わえたりするメリットがあります。 以上が、第3章：干支・旧暦・六曜の基礎と2025年の詳細です。 干支や旧暦、六曜といった考え方は、現代ではややマイナーになりつつある部分もありますが、日本の文化・風習を理解するうえで欠かせない要素でもあります。2025年が「乙巳 (きのと・み) 」の年であることや、旧暦で見た行事の時期、さらには大安や仏滅などの六曜にまつわる知識を押さえておくと、季節行事や冠婚葬祭、ビジネスシーンでも役立つシーンが多いでしょう。 第4章：二十四節気と雑節の魅力 1. 二十四節気とは？ 日本の暦には、古来中国より伝わった「二十四節気 (にじゅうしせっき) 」と呼ばれる季節の区分があります。これは1年を24等分し、太陽の通り道 (黄道) を基準として、約15日ごとに名称を付けたものです。暦といっても、月の満ち欠けを基準とした旧暦ではなく、あくまで太陽の位置 (太陽黄経) によって区分される点が特徴です。 1) 成り立ちと太陽の黄経による決定方法 太陽は地球の周りを1年かけて公転すると考えられていた時代、中国では太陽が黄道上の一定の角度 (黄経) に位置しているかを細かく観察し、季節の変化を捉えようとしました。360度の黄道を24等分すると、1区分あたり15度ずつになり、0度から順に「立春」「雨水」「啓蟄」…というように節気の名前が付けられています。たとえば、太陽が黄経0度に達する時点を「立春」、90度を「夏至」、180度を「秋分」、270度を「冬至」としているわけです。 日本に伝来したのは奈良時代や平安時代ごろとされ、農作業や生活のリズムを整える重要な指標として活用されました。現代においても、暦や新聞・気象情報で二十四節気の名称を目にすることがあり、季節感を演出する上で欠かせない存在となっています。 2) 春分・秋分・夏至・冬至といった主要節気の豆知識 二十四節気の中でも、特に次の4つは現代でもよく耳にするものです。 春分 (しゅんぶん) : 昼夜の長さがほぼ同じになるタイミングで、日本では春分の日が祝日として定められています。2025年の春分の日は3月20日 (木) で、「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」とされています。 夏至 (げし) : 一年のうちで昼が最も長く、夜が最も短い日。太陽が北半球に最も高く昇り、陽射しが強くなる時期です。2025年の夏至は黄経90度に達する6月21日 (土) で、日本では梅雨シーズン真っただ中にあたることが多いです。 秋分 (しゅうぶん) : 春分と同じく昼夜の長さがほぼ同じになる日で、2025年は9月23日 (火) が秋分の日です。「祖先をうやまい、亡くなった人々をしのぶ日」として、先祖供養やお墓参りをする家が多いのもこの時期です。 冬至 (とうじ) : 一年で最も夜が長く、昼が短い日。2025年は12月22日 (月) 頃にあたり、ゆず湯に入り、カボチャを食べて寒さを乗り切る風習がよく知られています。 これら4節気は昼と夜の長さや太陽の高さが大きく変わる節目で、古来より人々の暮らしに深く関わってきました。農作業や漁業はもちろん、日常生活の感覚としても季節の移り変わりを体感できる重要な時期といえるでしょう。 2. 2025年の節気カレンダー ここでは、2025年の二十四節気をまとめたカレンダーを示してみます。なお、節気の日付は国立天文台などの資料をもとに毎年公表されるものの、年によって1日前後ズレる場合がある点にご注意ください。 1) 小寒・大寒から立春までの厳冬期 日本では1月～2月が一年で最も寒い時期にあたり、二十四節気でも「小寒」「大寒」が設定されています。 「小寒」は一般に1月5日頃で「寒の入り」とも呼ばれ、「大寒」は1月20日頃で「一年で最も寒さが厳しくなる」時期とされます。二十四節気上は「立春 (2月上旬) 」をもって春とみなしますが、実際にはまだまだ気温が低い日が続くことも珍しくありません。 2) 春分・立夏・立秋・立冬の日付一覧 2025年 二十四節気カレンダー (主要節気抜粋) 節気 黄経 2025年の日付 主な季節の変化 立春 315度 2月3日 (月) 暦の上で春の始まり 春分 0度 3月20日 (木) 昼夜の長さがほぼ同じ 立夏 45度 5月5日 (月) 暦上の夏のはじまり 夏至 90度 6月21日 (土) 一年で昼が最も長い 立秋 135度 8月7日 (木) 暦の上で秋へ 秋分 180度 9月23日 (火) 昼夜の長さがほぼ同じ 立冬 225度 11月7日 (金) 暦上の冬のはじまり 冬至 270度 12月22日 (月) 一年で昼が最も短い このほかにも「啓蟄 (3月上旬) 」「芒種 (6月上旬) 」「白露 (9月上旬) 」など、各節気には風情ある名称が付けられています。二十四節気は「今は大寒だから本格的な寒さがピークだ」といった形で気候の目安となるだけでなく、季節感を表現する言葉としても重宝されてきました。 3) 節分や土用など雑節も含めた解説 二十四節気以外にも、雑節 (ざっせつ) と呼ばれる季節指標があります。たとえば下記のようなものです。 節分： 立春の前日が「節分」と呼ばれ、旧暦では大晦日に相当する重要な日でした。「豆まき」や「恵方巻き」など、日本特有の風習が多く残っています。 2025年の節分は2月2日 (日) にあたり、翌2月3日 (月) が立春です。 土用： 立春・立夏・立秋・立冬の直前約18日間ほどをまとめて「土用」といいます。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期ともされ、特に「土用の丑の日」にウナギを食べる慣習は広く知られています (夏の土用が有名ですが、実は四季ごとに土用は存在します) 。 社日・八十八夜・二百十日など： いずれも農作に関わる指標として古くから使われてきました。社日 (しゃにち) は春秋の彼岸に近い時期、八十八夜は立春から数えて88日目、二百十日は立春から210日目にあたります。台風の襲来が多くなる時期や、種まきの目安などを示してきたのです。 このように、雑節は二十四節気だけではカバーしきれない細かな季節の変わり目や農耕上の注意すべき期間を補足する役割を担っています。「暦」を多角的に捉えることで、人々が自然のサイクルに寄り添いながら生活してきた歴史をうかがい知ることができるでしょう。 3. 日本の季節行事と節気の関係 二十四節気や雑節は、ただ日付を区切るための仕組みというだけでなく、四季折々の行事や風習と深く結び付いています。 ここでは、代表的な行事をいくつか例に挙げ、節気とのつながりを簡単に解説します。 1) 節分、ひな祭り、お月見、七夕など 節分 (2月上旬) : 前述した通り、立春の前日が節分です。鬼を払う豆まきの行事は、冬の厳しい寒さとともに邪気を追い出し、翌日から始まる春に清々しい気持ちで臨むという意味合いがあります。 ひな祭り (3月3日) : 桃の節句と呼ばれ、旧暦では春本番に近いタイミング。女の子の健やかな成長を願う行事ですが、古くは「上巳 (じょうし) の節句」として川で身を清める習慣があったとされています。暦と関連し、

く出現する現象です。2025年も例年通り主要な流星群が活発化しますが、月齢や天候、観測時間帯によって見え方が大きく異なります。ここでは、代表的な流星群と2025年の観測条件を確認しましょう。 1) しぶんぎ座・こと座・ペルセウス座・ふたご座 ほか主な流星群 しぶんぎ座流星群（1月上旬）： 三大流星群の一つ。1月3日～4日深夜に極大を迎え、運が良ければ1時間に数十個もの流星を見ることができます。月齢が小さい年は観測条件が良いですが、2025年は1月4日がまだ細い月のため、まずまず期待できる可能性があります。 こと座流星群（4月下旬）： 4月22日前後が極大。スピードが速い流星が特徴です。ただし2025年は下弦を過ぎた月が夜半以降に昇ってくるため、光害の少ない場所を選ばないと見づらいかもしれません。 ペルセウス座流星群（8月中旬）： 夏の代表的な流星群。8月12日～13日頃がピークで、通常であれば1時間に50個以上が期待できます。2025年は月齢が20前後となり、夜空がやや明るい状態になる見込みです。それでも観測範囲を工夫すれば流星を十分捉えられるでしょう。 オリオン座流星群（10月下旬）： ハレー彗星を母体とする流星群。10月22日頃に極大を迎えます。2025年は月齢が末期で、月明かりがあまり気にならないはずです。秋の夜長に快適な流星観察が期待できます。 しし座流星群（11月中旬）： 33年周期で大出現が知られる流星群。近年は比較的落ち着いていますが、2025年は月齢が細く観測条件が良好です。歴史的な大出現（「流星雨」）はあまり期待されていませんが、11月中旬の深夜帯はチェックしておきたいところです。 ふたご座流星群（12月中旬）： 年間最大級の流星群で、12月13日～14日頃に極大を迎えます。月齢は約4日前後となるため、流星がやや月明かりに影響を受けるかもしれませんが、例年通り多くの流星が流れる可能性があります。 2) 月齢との関係、観測条件の良し悪し 流星観測の敵となるのは街明かり（光害）だけでなく、月明かりも大きな影響を及ぼします。満月に近い時期は空が明るく、暗い流星が見えにくくなります。逆に新月に近いほど夜空が暗く、流星観察に適した条件となります。 2025年は、ペルセウス座流星群や狩人座流星群などは、しし座流星群やオリオン座流星群の頃には条件が良いと予想されるため、月の出入り時刻を事前に調べておくと効率的に観測できるでしょう。 3) 観測に適した方角や場所選びのコツ 方角：流星群は放射点を中心に流れますが、必ずしも放射点付近だけを凝視する必要はありません。夜空全体を広く見ることで多くの流星を捉えやすくなります。 場所：街灯や建物が少ない郊外や山間部がベスト。天気予報で雲量や風向きをチェックし、なるべく視界が開けた場所を選ぶとよいでしょう。 装備：夜間は夏でも冷え込むことがあるため、防寒具を用意しましょう。レジャーシートやアウトドアチェアがあると、首や肩に負担をかけずリラックスして星空を眺められます。 3. 惑星の接近や天文ショー 流星群や月食だけでなく、惑星同士や月との接近、いわゆる“天文ショー”も見逃せません。2025年は火星や土星、木星などが相次いで「衝」（しょう）を迎え、夜空でひときわ明るくなるシーンが期待できます。また、月が惑星を隠す「惑星食」も起こる可能性があります。 1) 火星・木星・土星の衝や大接近 火星の衝： 約2年2か月ごとに起こり、地球と太陽の正反対の位置に来るため、ほぼ一晩中観測できる好機です。2025年は1月中旬に衝となり、火星がマイナス等級で輝きます。年末年始から春先にかけては、赤い惑星を存分に楽しむチャンスでしょう。 木星の衝： 約1年1か月ごとに訪れます。木星は常に明るいですが、衝の前後はさらに見やすくなるうえ、ガリレオ衛星（イオ・エウロパ・ガニメデ・カリスト）が高倍率望遠鏡でよく見えるため人気の高い時期です。 土星の衝： 土星の美しい環（リング）は、衝の前後がベストシーズン。2025年も夏から秋にかけて観測条件が良くなる見通しです。土星はほかの惑星に比べてやや暗いですが、天体望遠鏡があればリングの隙間（カッシーニの間隙）まで確認できます。 2) 惑星食（月が惑星を隠す現象）の日程 「惑星食」とは、月が惑星の手前を通過し、その惑星を一時的に隠す現象です。日食（太陽が月に隠される）と類似した仕組みですが、観測できる範囲が限られるうえ、タイミングも数十分～1時間前後と短い場合が多く、貴重なイベントとして天文ファンに人気があります。2025年は火星食や土星食があると予測されますが、観測地域や時間によっては明るい時間帯に起こることもあるため注意が必要です。最新の星図アプリや天文カレンダーで細かい日時・場所を確認してみてください。 3) 双眼鏡・望遠鏡を使った観測の楽しみ方 双眼鏡：比較的軽量で手軽に使えるため、流星観測や月面観察、星団・星雲の探索にも向いています。7～10倍程度の双眼鏡が一台あると、観測の幅がグッと広がります。 小型望遠鏡：火星や土星など惑星を鮮明に捉えたい場合、焦点距離の長い口径70～150mm程度の望遠鏡がおすすめ。価格帯も広く、初心者向けモデルから高級機まで多彩です。ガイド機能付き（自動追尾）の望遠鏡なら、惑星の動きを追いやすいでしょう。 撮影：スマートフォンでも、月面や明るい惑星ならそれなりに写せますが、本格的に惑星表面や星団を撮影するならデジタル一眼カメラ＋望遠鏡の組み合わせが望ましいです。シャッタースピードやISO感度の調整、赤道儀などの装備も視野に入れてください。 4. その他天文トピックス 2025年には、地上からの観測だけでなく、宇宙開発や国際的な協力ミッションなども活発に進む予定です。ここでは、国際宇宙ステーション（ISS）の通過予測や大規模な宇宙探査プログラムなどをご紹介します。 1) 国際宇宙ステーション（ISS）の通過予測 ISSは地球上空約400kmを約90分で1周するペースで周回しており、晴天時には夜間に明るい光点として肉眼で視認可能です。時間帯や観測場所によってはマイナス等級で輝き、星と見間違えないほどの速さで空を横切るのが特徴です。 ISSの正確な通過時刻・方角は、NASAやJAXA、天文情報サイトなどが提供している予報を参照するとよいでしょう。天候が良ければ、1回の通過で長い時間軌跡を眺められるため、家族や友達と楽しむにもおすすめです。 2) 宇宙探査ミッションの打ち上げスケジュール（アルテミス計画など） 近年、各国が協力して展開する月・火星探査が注目を浴びています。特にNASAのアルテミス計画では、2025年～2026年頃にかけての有人月探査ミッション（アルテミス2号、アルテミス3号）実現が期待されており、ロケット打ち上げのニュースが大きな話題になる可能性が高いです。また、ヨーロッパや日本（JAXA）も共同で参加しており、宇宙飛行士の選抜や新しい月面着陸の技術実験などが進められています。 アルテミス2号：有人月周回飛行計画。宇宙飛行士が月周回軌道まで行き、地球に帰還するテストミッション。 アルテミス3号：月面着陸を含む計画で、数十年ぶりに人類が月面に降り立つ可能性がある大イベント。 その他、火星に向けた無人探査機の打ち上げや、国際協力による宇宙望遠鏡の運用など、多方面で新たなプロジェクトが控えています。こうした宇宙探査の進展を知ると、夜空を見上げる楽しさがさらに増すかもしれません。 以上が「第5章：天文現象カレンダー」の概要です。月食や流星群、惑星観測に加え、ISSの通過や宇宙開発のトピックスなど、2025年は天文ファンにとって見どころ満載の1年といえるでしょう。ぜひ最新の天文情報をこまめにチェックしながら、神秘的な宇宙の姿を存分に味わってみてください。 第6章：四季と気象の予測・季節の過ごし方 1. 2025年の気象傾向と注意点 日本の気象は、エルニーニョ現象やラニーニャ現象、台風の発生数など、さまざまな要因によって年ごとに大きく変動します。2025年の天候予測については現時点での予測情報を踏まえつつ、猛暑・寒冬・台風などのリスクに目を向けておくと、年間を通じた備えがしやすくなるでしょう。 1) ラニーニャ/エルニーニョなどの影響予測 太平洋赤道域の海面水温が平年より高くなるとエルニーニョ現象、逆に低くなるとラニーニャ現象と呼ばれ、世界規模で気候に影響を及ぼします。 一般的にラニーニャ現象では、日本では猛暑・寒冬傾向が強まると言われ、エルニーニョ現象下では冷夏や暖冬になる可能性が指摘されることが多いです。 2024年末～2025年の初頭にかけて、ラニーニャに近い中立状態となる可能性があるとの長期予報もあり、冬は一時的に強い寒波が流れ込みやすい時期がある一方、春以降は気温が急上昇するメリハリのあるパターンが想定されています。 もちろん、大気や海洋の状態は刻々と変わるため、定期的な気象庁や民間気象予報会社の発表をチェックすることが大切です。 2) 猛暑・寒冬・台風・豪雨・雪害などのリスク 猛暑・熱中症リスク 猛暑が予想される年は、熱中症患者や電力需給逼迫などの課題が懸念されます。特に高齢者や子どもは体温調節機能が弱いため、周囲が適切な水分補給・冷房の使用を心がけることが重要です。 寒冬・大雪の可能性 ラニーニャ現象などで寒気が南下しやすい年は、豪雪地域だけでなく都市部でも積雪が起こり交通網に混乱をきたすことがあります。スタッドレスタイヤの準備や雪かき用品など、防寒・防雪対策を怠らないようにしましょう。 台風・豪雨 台風の発生数自体は年によって大きく異なりますが、海水温の上昇により勢力の強い台風が発生しやすいといわれます。また、日本列島を直撃するコースの場合、記録的大雨や暴風被害が懸念されるため、ハザードマップの確認や防災グッズの準備が欠かせません。 突発的な豪雨・ゲリラ豪雨 夏季に限らず、不安定な大気が形成されると線状降水帯による集中豪雨が発生することがあります。河川の氾濫や土砂災害の危険が高まるため、市町村の避難情報や早めの避難行動を心がけましょう。 これらのリスクは年々増す傾向にあり、気候変動の影響も無視できません。いざというときに備えて、こまめな天気予報のチェックはもちろん、家族や地域での防災対策を話し合っておくと安心です。 2. 春（3～5月）：短い春の楽しみ方 日本の春は、厳冬の中から日差しの暖かさが増し、桜やさまざまな草花が一斉に芽吹く季節です。ただし、近年は気温の変化が激しく、「春が短い」と感じる人も多いのではないでしょうか。ここでは春の楽しみ方と注意すべきポイントをまとめます。 1) 桜の開花時期予想 桜前線は例年、沖縄から始まり、九州・本州を北上して最終的に北海道へ到達します。 2025年は冬場に冷え込む期間があるため、春先に急に暖かくなるという予想もあり、開花が平年よりやや早まる可能性があります。 地域によっては3月下旬～4月上旬が見頃のピークになることが多いですが、毎年数日の違いで大きく変動するため、気象庁や民間予報会社の「桜開花予想」を参考にお花見計画を立てるのがおすすめです。 2) 花粉飛散ピークと対策 スギ・ヒノキ花粉症を持つ方にとっては、春はつらい時期でもあります。 2025年は前年度の気温・降水量などの影響で、花粉飛散量が多めという予測も出ています。早めに花粉症対策を始めておきましょう。 マスク・ゴーグルを着用し、外出後は衣服や髪についた花粉を落とす。 空気清浄機を活用し、室内の花粉を極力抑える。 医療機関での早期治療・予防的な内服薬も検討。セルフケアだけでなく専門家のアドバイスも有用。 桜の名所は花粉飛散が多い山間部や公園による場合が多いため、万全の対策をしておくと、お花見やアウトドアレジャーがより快適に楽しめます。 3. 夏（6～8月）：猛暑・台風シーズン 夏の日本は梅雨、台風、そして猛暑がセットでやってきます。特に近年の地球温暖化の影響から、記録的な高温やゲリラ豪雨が頻発するようになりました。2025年も十分な警戒と対策が必要とされるでしょう。 1) 海の日前後の暑さと熱中症対策 海の日（7月第3月曜日）が終わる頃には、全国的に本格的な暑さが訪れます。2025年は7月21日（月）が海の日です。 気温が30℃を超える真夏日や35℃以上の猛暑日が連日続くと、熱中症リスクが非常に高まります。特に屋外イベントや部活動・スポーツの大会が集中するシーズンのため、こまめな水分・塩分補給や適切なクーリングダウンを心がけましょう。 また、湿度も考慮すると熱中症の危険度が上がるため、熱帯夜が続く都市部ではエアコンを上手に活用して、無理なく睡眠をとることが大切です。 2) お盆前後の帰省ラッシュ・イベント情報 多くの企業・学校は8月中旬に夏季休暇をとり、お盆を中心とした連休が発生します。2025年は8月11日（月）の山の日と土日を絡めて、5～9連休を確保するケースも少なくありません。 お盆の時期には帰省ラッシュ・Uターンラッシュが道路や新幹線が混雑し、国内旅行・レジャー施設も大変なにぎわいを見せます。夏祭り・花火大会などの季節行事も各地で行われるため、早めの予約が鉄則です。 一方で、台風シーズンと重なるため、交通機関の乱れやイベントの中止にも注意が必要です。近年は台風の勢力が強まる傾向があるので、天気予報を随時確認しつつ、旅程変更にも柔軟に対応できるようにしておきましょう。 4. 秋（9～11月）：残暑から紅葉へ 例年9月中頃までは残暑が続きますが、台風が通過して空気が入れ替わると一気に秋らしい気候に移行することがあります。秋は台風シーズン真っ只中でもあるため、暴風・豪雨への備えを忘れずに。さらに10月下旬以降は気温がグッと下がり、紅葉が進んで秋の風情を存分に味わえるでしょう。 1) 秋分の日の過ごし方 秋分の日（9月23日）は、祖先を敬い、亡くなった人をしのぶ日とされています。お墓参りをしたり、秋の味覚を楽しんだりするのもいいでしょう。 また、「秋のお彼岸」は秋分の前後3日ずつを合わせた7日間のことで、“暑さ寒さも彼岸まで”という言葉どおり、秋分を境に気候が変わりやすくなります。体調管理を意識すると同時に、レジャーや行楽の計画も立てやすい季節です。 2) 紅葉の見頃予想 北海道・東北：9月下旬～10月中旬がピークになりやすい。標高の高い山間部から色づき始め、市街地に降りてくる。 関東・甲信越：10月下旬～11月中旬。人気の観光地（箱根・日光・軽井沢など）は週末ごとに混雑するため要注意。 関西・中国・四国：11月上旬～下旬。京都や奈良の古寺巡りは紅葉シーズン最盛期に多くの観光客が集中する。 九州：11月上旬～下旬。高千穂峡や阿蘇山麓などではダイナミックな秋景色が楽しめる。 紅葉を目当てに出かける際は、積雪の可能性がある地域や大幅な冷え込みが予想される山岳地帯に要注意です。天候の急変に備えて、温度調節しやすい服装を心がけましょう。 5. 冬（12～2月）：寒波と年末年始 日本の冬は地域によって様相が大きく異なります。北海道や東北の日本海側は豪雪地帯であり、西日本の都市部でも強い寒波が襲来すると積雪や凍結が起こり、交通機関が麻痺する場合があります。 年末年始にかけて、さらに寒さが厳しくなる見込みです。 1) 年末年始の天候傾向 年末年始（12月下旬～1月上旬）には強い寒気が流れ込み、日本海側で大雪、太平洋側でも断続的に冷え込みが続くと予想されます。帰省や旅行で移動が多い時期だけに、JRや航空便、高速道路の運行情報を随時チェックし、積雪時の運転や交通トラブルに注意しましょう。 また、2025年は正月明けに連休が続く週もあり、企業や学校によっては年末年始休暇が長期化する動きも見られそうです。計画的にスケジュールを組んで、寒さ対策を万全に楽しむと良いでしょう。 2) 雪対策・インフルエンザ予防などの生活情報 雪対策: スタッドレスタイヤの装着やチェーンの携行はもちろん、スコップや融雪剤なども早めに用意しましょう。大雪が降った場合に備えて、屋根の雪下ろしや塀・樹木の補強なども検討が必要です。 インフルエンザ予防: 例年12月～3月にかけて流行が予想されます。ワクチン接種はもちろん、手洗い・うがい・換気などの基本的対策を徹底しましょう。2020年代に入ってからは、新型コロナウイルスとの同時流行のリスクも懸念されるため注意が必要です。 暖房と換気の両立: 寒いからといって閉め切っていると、乾燥やウイルス感染リスクが高まります。加湿器を適切に使いながらこまめに換気するなど、健康管理を意識した室内環境づくりが重要です。 総じて2025年の冬は極端な寒さと降雪リスクがある一方、晴れ間が出ると気温が一気に上がる日もあり、気象変動の幅が大きい年になる可能性があります。こまめな情報収集と柔軟な対応で、安全かつ快適な冬を過ごしましょう。 以上が「第6章：四季と気象の予測・季節の過ごし方」の全体像です。 短い春、厳しい夏、台風が重なる秋、そして寒波に見舞われる冬――いずれの季節にも、気候変化への備えと季節行事の楽しみを両立させることが、快適な一年を送る秘訣です。ぜひこの章を参考に、2025年の天候や季節行事をうまく活用してみてください。 第7章：世界の祝祭日と国際行事 2025年は日本国内だけでなく、世界各国でも大きな休暇シーズンや宗教行事が目白押しです。グローバル化が進む現代では、海外の祝祭日が日本のビジネスや観光業に与える影響も決して小さくありません。ここでは、主要国の祝日や宗教行事、国際機関の記念日などを総合的に整理し、「いつ、どの国が長期休暇になるか」「どんな行事で休業や混雑が起きるのか」を見ていきましょう。 1. 主要国（アメリカ・中国・韓国・欧州など）の祝日・長期休暇 海外と取引がある企業や観光関連業に携わる方は、各国の祝日・長期休暇の時期を把握しておくことが重要です。ここでは、代表的な祝祭日や長期休暇をピックアップして解説します。 1) 春節、チュソク、サンクスギビング、クリスマスなど 中国の春節（旧正月）： 旧暦の正月で、中国最大の祝祭です。2025年は1月29日（水）にあたり、前後で1～2週間の連休が発生する企業もあります。春節時期は中国国内のみならず、東アジアや世界各地の中華街でも大規模なイベントが行われ、国際線やホテルが急激に混雑するのが特徴です。 韓国のソルラル（旧正月）： 中国の春節と同じく旧暦1月1日を祝うため、1月29日前後が休暇となります。韓国では3～5日程度の連休を取ることが多く、官公庁や企業がほぼ停止状態になり、旅行者の動きも活発化します。 チュソク（秋夕）： 旧暦8月15日にあたる、韓国のお盆に相当する行事です。2025年は新暦で10月上旬頃（※正確な日付は旧暦暦注による）となる見込みで、こちらもソルラル同様に帰省や旅行が集中します。 アメリカのサンクスギビング（感謝祭）： 毎年11月の第4木曜日に定められており、2025年は11月27日（木）に当たります。感謝祭から翌日の“ブラックフライデー”にかけては大型セールが各地で行われ、航空便や高速道路、ショッピングモールが大混雑します。 欧米のクリスマス： 12月25日は多くの国で祝祭日となり、企業や学校が長期休暇に入るきっかけとなります。ヨーロッパではクリスマス前のアドベント期間（12月初め～24日）から街が華やかな雰囲気に包まれ、マーケットやイルミネーションが盛り上がります。日本の取引先もクリスマスホリデーに突入すると連絡が途絶えやすいので要注意です。 2) ビジネス休業時期や観光混雑期の把握 上記のような大型連休や祝祭日は、観光業界にとっては大きなビジネスチャンスである一方、国際物流や金融取引の面ではスケジュール調整が必要になります。例えば、中国の春節期間は工場稼働や港湾作業が停止し、生産・輸送の遅延が発生しやすいです。また、韓国のソルラル時期に韓国企業と連絡を取ろうとしても、数日間メールや電話がまったく通じないケースも珍しくありません。 観光面では、インバウンド客の増加や航空券の値上がり、人気観光地の混雑などが予想されます。特に欧米ではクリスマスシーズン、日本ではゴールデンウィークやお盆、または中国では国慶節（10月1日を含む1週間以上の大型休暇）など、多国籍にわたって祝祭日が重なると、ホテルや交通機関の予約状況が一気に逼迫しやすいでしょう。 2. 宗教行事カレンダー 世界にはさまざまな宗教が存在し、それぞれの行事・祭日が国や地域に根付いています。グローバル社会では、宗教行事の時期を理解することがビジネスにも観光にも役立ちます。ここでは、代表的な宗教行事をピックアップして解説します。 1) キリスト教：イースター・クリスマス イースター（復活祭）： キリスト教最大の行事で、2025年は4月20日（日）（西方教会）に祝われます。欧米の国々ではグッドフライデー（イースター直前の金曜日）やイースターマンデー（復活祭翌日の月曜日）が祝日扱いのところも多く、連休になるケースが一般的です。 クリスマス（降誕祭）： 12月25日にイエス・キリストの降誕を祝う行事です。ヨーロッパやアメリカでは家族が集う最も大切な休日のひとつで、ビジネスはほぼ停止状態になります。日本では祝日ではありませんが、商業施設のイベントやイルミネーションが盛大に行われる時期となっています。 2) イスラム教：ラマダン、イード・アル・フィトル、イード・アル・アドハー ラマダン（断食月）： イスラム暦の9番目の月で、日の出から日没まで断食を行う期間です。2025年は2月末～3月末頃と推定されます（天文学的計算で前後する可能性あり）。 ラマダン中は生活リズムが変化するため、イスラム圏の企業の営業時間や対応に影響が出ることが多いです。 イード・アル・フィトル（開斎祭）： ラマダン明けを祝う祝祭で、3月下旬～4月上旬に3日ほどの連休をとる国が多いです。この期間は盛大な行事と家族の集まりが行われ、官公庁や企業が一時休業することも珍しくありません。 イード・アル・アドハー（犠牲祭）： イスラム暦12月10日に行われる最大の行事で、2025年は6月上旬頃と予想されます。メッカへの巡礼（ハッジ）がクライマックスを迎えるタイミングとも重なり、航空券やホテル予約が非常に取りにくくなることがあります。 3) 仏教・ヒンドゥー教：花まつり、ヴェーサク、ディーワーリーなど 仏教（花まつり、ヴェーサク）： 日本では花まつり（潅仏会）が4月8日に行われることが一般的で、お釈迦様の誕生を祝います。一方、ヴェーサク（ウェーサーカ祭）は仏陀の誕生・悟り・涅槃を同日に祝う行事で、国や宗派によって日付が異なりますが、旧暦4月15日前後を中心に盛大に祝われます。 ヒンドゥー教（ディーワーリー）： 光の祭典とも呼ばれ、インドやネパールなどで最も大切にされている行事です。新月の日を迎えるタイミングで行われるため年によって日付が変わり、2025年は10月20日頃に相当する見通し。 家々にランプや灯明をともして女神ラクシュミを迎え入れるため、商店は祝賀ムードになり、多くの国民が休暇を取ることがあります。 このように世界中の宗教行事は、旧暦や太陰暦、天文計算で決定されるものが多いため、年によって日付が前後する場合が珍しくありません。祝祭日が直前まで確定しない国・地域もあるため、ビジネスや旅行計画を立てる際は十分なリサーチが必要です。 3. 国連や国際機関の記念日 国連（国際連合）や各種国際機関では、平和・人権・環境・健康など、多様なテーマで毎年「国際○○デー」を定めています。これらの記念日は世界的なキャンペーンやイベントが行われる機会となり、企業や自治体がSDGs関連の取り組みを発表する場にもなっています。 1) 国連創設80周年関連イベント 2025年は国連創設80周年にあたります（国際連合は1945年10月24日発足）。この節目の年には、国際連合の本部をはじめ、各国の支部・関連組織が記念事業を実施する可能性が高いです。 平和維持活動や難民支援、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けたイベントや会議が世界各地で行われ、メディアでも広く取り上げられるでしょう。日本でも広島・長崎を中心に、核廃絶・戦争の惨禍を再認識する取り組みが増えることが予想されます。 2) 国際○○デー（地球の日、女性の日、ヨガの日 等） 国際女性の日（International Women’s Day）： 3月8日に定められており、ジェンダー平等や女性の社会参画を呼びかけるイベントが世界各国で開催されます。 アースデイ（Earth Day）： 毎年4月22日に行われる“地球環境保護”のための記念日です。各地でクリーンアップ活動や自然保護啓発イベントが実施されます。 国際ヨガの日（International Day of Yoga）： 6月21日が国際連合で公式に定められたヨガの日。世界各地でヨガレッスンや健康増進イベントが行われ、心身の健康を見直すきっかけになります。 その他： 世界食糧デー（10月16日）、世界エイズデー（12月1日）、世界難民の日（6月20日）など、年間を通じて国際的な課題に焦点を当てる記念日が数多く存在します。 こうした国際○○デーは、各国政府やNGO、企業、教育機関がPR活動やセミナーを行う契機となります。2025年は特に国連創設80周年と重なるため、多くの国際行事やイベントがより大規模に展開される可能性が高いです。 ビジネスパーソンにとっても、CSR（企業の社会的責任）やESG投資の観点で注目が集まるイベントへの参加や情報発信が、新たな企業イメージ向上につながるチャンスと言えます。 以上、「第7章：世界の祝祭日と国際行事」では、主要国の大型連休や宗教的祭日、国連など国際機関の記念日について詳しく見てきました。 グローバル化が進む中、海外の祝日や宗教行事のタイミングは、日本国内のビジネスや観光にも大きく影響します。2025年もこれらのスケジュールを上手に把握しながら、柔軟に対応していきましょう。 第8章：2025年の行事・イベント総覧 2025年は国内外で数多くのビッグイベントや文化的催しが予定されており、スポーツ・芸術・エンターテインメントの分野が一層盛り上がる見通しです。ここでは、日本国内の主なイベントから、海外の見逃せない祭典、さらにはアニバーサリーイヤーや流行が期待されるカルチャー情報までを網羅的にご紹介します。 1. 国内イベント 1) 大阪・関西万博（4月～10月） 2025年を象徴する一大プロジェクトとして大きな注目を集めているのが、大阪・関西万博（2025年日本国際博覧会）です。開催期間は2025年4月13日（日）～10月13日（月）（予定）で、大阪市の夢洲（ゆめしま）をメイン会場とし、期間中に世界各国からの参加パビリオン・企業出展・新技術のショーケースなどが行われます。 テーマ：「いのち輝く未来社会のデザイン」 健康・環境・持続可能性などをキーワードに、最先端テクノロジーを活用した未来像が提案される見込みです。 参加国・地域数 150以上の国・地域と25を超える国際機関が出展予定と発表されています。多様な文化交流やビジネスチャンスが期待されます。 アクセス 大阪市内からの交通インフラ整備が進められており、鉄道延伸や水上バスなど新たな交通手段が検討中。会期中は混雑が予想されるため、事前チケット購入や公共交通機関の利用が推奨されます。 万博会場内だけでなく、関西各地で関連イベントや連携企画が多数予定されて、期間中の来場者数は約2,800万人に上るとの試算もあります。今後の動向をこまめにチェックし、「いつ・どのパビリオンを見学するか」を計画的に考えることが大切です。 2) スポーツ大会（世界陸上、デフリンピックなど） 世界陸上競技選手権大会（通称：世界陸上）： 2025年は、9月13日～21日にかけて東京の国立競技場を中心に開催される見込みです。 オリンピック以来となる大規模国際大会で、日本人トップアスリートが国内で世界の強豪と対戦する姿が期待されています。会場チケットは争奪戦になる可能性大ですので、早めの情報収集をおすすめします。 デフリンピック（世界ろう者競技大会）： 聴覚障がい者を対象とした国際競技大会で、2025年11月15日～26日に東京で開催予定。 100を超える国と地域から数千人の選手団が参加し、陸上・水泳・球技など多種目で競われます。アスリートの活躍とともに、バリアフリー社会や多様性に対する理解がさらに深まる契機となるでしょう。 これらの国際大会に伴い、外国人選手・観光客が一時的に大量来日することで、ホテルの予約難や公共交通機関の混雑が見込まれます。スポーツファンは早めの計画が吉です。 3) 音楽・芸術・伝統行事（各地の花火大会、秋祭り ほか） 2025年の国内イベントはスポーツや万博だけにとどまりません。音楽フェス、芸術祭、伝統行事なども全国各地で盛り上がりを見せるでしょう。 夏の花火大会： 例年7月～8月にかけて、隅田川花火大会（東京）、天神祭奉納花火（大阪）、長岡まつり大花火大会（新潟）などが開催され、国内外から多くの観光客が訪れます。2025年は万博を絡めて関西圏に滞在する外国人も増加が予想され、花火大会の混雑具合がさらに高まるかもしれません。 秋祭り： 秋には神社の例大祭や収穫祭が多数行われます。岸和田だんじり祭（大阪）、秩父夜祭（埼玉）、高山祭（岐阜）などの大規模祭りは例年大変な賑わいで、宿泊施設の早期予約が必要になるケースも少なくありません。 音楽・芸術フェス： Fuji Rock Festival、Rock in Japan、Summer Sonicなどの音楽フェスが夏を中心に行われます。クラシックコンサートやオペラ公演も各都市で充実しており、海外アーティストの来日ツアーが万博関連でさらに増える可能性があります。 また、地方自治体が主催する「芸術祭」「ビエンナーレ」「トリエンナーレ」と呼ばれるアートイベントも各地域で活況を呈しています。2025年は万博を機に、多くの国外アーティストが日本に集結し、新しいアートシーンが盛り上がることが期待されています。 2. 世界各地の見逃せない催し 日本での盛り上がりと並行して、海外でもさまざまな大型イベントが計画されています。国際交流やビジネスチャンスを狙う方にとっては、海外の博覧会や見本市、スポーツリーグの動向も見逃せません。 1) 各国博覧会・国際見本市 各国のEXPO・博覧会: 日本の万博ほど大規模ではないものの、産業博覧会やテクノロジー系見本市がアジアや欧州各都市で定期的に開催されます。スマートシティ、AI、ロボティクスなど次世代産業に注目が集まっており、国際ビジネス取引の拡大を目指す企業も多いでしょう。 ファッション・自動車見本市: 春秋にニューヨークやパリで行われるファッションウィーク、ドイツ・フランクフルトなどで開催されるモーターショーやIT見本市（CeBITの後継など）が、依然として世界の注目を集めています。2025年も次世代のEV（電気自動車）や自動運転技術、サステナブルファッションがキーワードとなる予想です。 2) 主要スポーツリーグ・国際大会日程 2025年はサッカーのワールドカップやラグビーワールドカップの開催年ではありませんが、クラブチーム同士の国際大会や各プロリーグの動向には注目です。ヨーロッパ・サッカーはUEFAチャンピオンズリーグなどが常に高い関心を集めていますし、アメリカのNBA・MLB・NFLは年間を通じて人気を誇っています。 欧州サッカー：UEFAネーションズリーグや欧州予選などが断続的に行われ、2026年のワールドカップ予選に向けて熱戦が展開されます。 メジャーリーグ（MLB）：シーズンは4月～10月ごろで、ポストシーズン・ワールドシリーズにかけて注目度が急上昇。日本人選手の活躍次第では国内メディアも沸騰必至です。 その他国際大会：バスケットボール（FIBA関連大会）やバレーボール、テニス（4大大会）なども通年で開催されています。スポーツファンは各競技の年間スケジュールをチェックしておきたいところです。 3. 文化・エンタメのトレンド 最後に、2025年ならではのカルチャー動向にも目を向けてみましょう。日本国内はもちろん、世界規模での記念イヤーや話題作のリリースが盛りだくさんです。 1) アニバーサリーイヤー（スーパーマリオ40周年など） スーパーマリオ40周年: 任天堂が1985年に発売した「スーパーマリオブラザーズ」は、2025年で40周年を迎えます。2020年には35周年として特別ソフトやコラボ商品が話題になりましたが、40周年はさらに大きな展開が予想されます。テーマパークや限定グッズ、公式イベントなどの発表に注目です。 その他ゲーム・キャラクターの節目: 1985年前後に生まれたゲームやアニメ作品は多く、ファン世代の盛り上がりが見込まれます。SNSや動画配信プラットフォームを通じて、大規模な“懐かし”ムーブメントが起こるかもしれません。 ラジオ放送開始100周年: 日本で初の本格ラジオ放送が1925年にスタートしてから、ちょうど100年です。NHKや民放各局が特別番組や記念企画を立ち上げる可能性があり、放送やメディアの歴史を振り返る機会になるでしょう。 2) 新作映画・ドラマ・音楽リリース情報（大作・話題作） ハリウッド大作: スーパーヒーローものやSF大作の続編が相次ぐ可能性が高いです。特に世界観が共有されるシェアード・ユニバース作品は大規模なプロモーションが行われ、万博会場とのコラボ企画などサプライズ要素も期待できます。 邦画・ドラマ: 日本でも大ヒットが見込まれるアニメ映画やTVドラマの劇場版などが続々と公開されるでしょう。有名漫画の実写化が進む動きがあり、2025年のラインナップに注目が集まります。 音楽シーン: K-POPをはじめとするアジア圏アーティストの世界進出が活発な時期です。万博の国際交流イベントなどでのスペシャルライブや日本ツアーの開催も期待されます。さらに配信プラットフォームの進化によって、世界同時リリースのアルバムやオンラインライブイベントが増える可能性があります。 いずれにしても、2025年の文化・エンタメはアニバーサリー要素や次世代プラットフォームの普及によって、新旧が融合した多彩なムーブメントが起こりそうです。SNSや動画配信サービスをはじめとするデジタル技術との相乗効果で、イベント参加の形態も一段と豊かになるでしょう。 以上が「第8章：2025年の行事・イベント総覧」の概要です。スポーツや万博といった巨大プロジェクトから、地域密着型の祭りや文化行事、さらにアニバーサリーイヤーに絡んだエンタメの話題まで、2025年はまさに“動きの多い一年”になることが予想されます。 ぜひ本章の情報を参考に、ご自身の興味やライフスタイルに合ったイベントを上手に見つけて、新たな体験や発見を楽しんでください。 第9章：2025年の歴史的節目・周年記念 歴史や文化を振り返るうえで、「周年」という節目は大きな意味を持ちます。2025年は、第二次世界大戦の終結から80年の節目をはじめ、さまざまな出来事の記念年が重なる特徴的な年です。ここでは、80周年・70周年・60周年など、主な節目の出来事とその意義、さらに各種記念プロジェクトの動きについて解説していきます。 1. 80周年・70周年・60周年・50周年 など 2025年には、過去の重大事件・戦争・災害・文化的発明などが「○○周年」を迎えるケースが多数存在します。特に注目度の高いトピックを以下にまとめました。 1) 第二次世界大戦終結80周年 1945年8月15日（日本時間）、昭和天皇の玉音放送による終戦の詔勅をもって日本は連合国に降伏しました。以後、世界的には9月2日の調印をもって戦争終結とみなす場合もありますが、いずれにせよ1945年が第二次世界大戦の終局であることに変わりありません。 2025年は終戦から80年という節目にあたり、日本国内では平和祈念式典や追悼行事が各地で予定されています。広島・長崎への原爆投下からも80年が経とうとしており、核軍縮や国際平和の意義をあらためて考える年になるでしょう。 2) 国際連合創設80周年 第二次世界大戦後の国際秩序を築くため、1945年10月24日に国際連合（国連）が発足しました。2025年はその創設から80年となり、国連80周年記念事業が世界各地で展開される見込みです。 国連本部や各国の国連支部では、平和維持活動（PKO）やSDGs（持続可能な開発目標）などに関するシンポジウム・フォーラムが予定され、メディアでも大きく報道されるでしょう。日本政府やNGO団体が参加するイベントが増えることで、平和と人権、環境保護に向けた取り組みを加速させる機運が高まると期待されます。 3) 阪神・淡路大震災から30年 ほか 1995年1月17日、兵庫県南部を中心に発生した大規模地震は「阪神・淡路大震災」として記憶されています。多くの尊い命が失われ、都市直下型地震の恐ろしさを全国に知らしめた出来事でした。 2025年は震災から30年の節目であり、神戸市をはじめ被災地域では追悼行事や防災イベントが計画されています。また、同年に起こった地下鉄サリン事件（3月）なども30年を迎えるため、平成時代の大事件を振り返る動きが高まるでしょう。これらの教訓を未来にどう活かしていくかが問われる重要な年となります。 さらに、日航ジャンボ機墜落事故（1985年8月12日）からは40年、日韓基本条約締結（1965年6月）から60年という記念年も挙げられます。外交や航空安全、国際協力など、さまざまな課題を掘り下げる機会が増えるでしょう。 2. 各分野での節目とその意味 戦争や災害だけでなく、文化的発明・企業創立・製品発売などにも大きな周年が重なります。技術革新や社会改革がどのように現代につながっているのかを見直し、次の世代へ伝えていく意義は深いといえるでしょう。 1) 航空事故・大災害・事件の教訓を振り返る 航空事故の安全対策 日航123便墜落事故（1985年）が40年を迎え、安全運航・安全技術の観点から航空業界の総点検が進められる可能性があります。慰霊碑での追悼式や新聞特集などを通じて、再び安全文化の大切さが社会に認識されるでしょう。 大災害の教訓 阪神・淡路大震災や東日本大震災（2011年）の事例を踏まえ、防災・減災に関するシンポジウムが各地で開催されます。自治体やNPOも含めて、地域コミュニティレベルでの防災計画の見直しが進む契機となりそうです。 事件・社会問題の再考 例えば、地下鉄サリン事件（1995年）から30年ということで、オウム真理教事件が日本社会にもたらした影響を改めて検証し、同時にカルト対策や公共交通の安全強化についてご議論が盛んになる可能性があります。 2) 文化・企業創立・製品発売○周年のイベント情報 2025年はスーパーマリオブラザーズ発売40周年や、ラジオ放送開始100周年など、エンタメ業界やメディア分野でも節目の年として色々な企画が予定されます。企業や団体が独自に記念プロジェクトを発表するケースも多く、新製品のリリースや限定版イベントが続々と登場することが期待されます。 また、IT企業の創立記念日が重なる可能性もあり、ソフトウェアやハードウェアの周年記念キャンペーン、特別セールなども見逃せません。 このような企業イベントは、ファンや顧客とのコミュニケーションを深める貴重な機会となるため、多くの